

令和7年度 全国硬筆コンクール課題参考手本

大平恵理書

学 年	氏 名
小 五	

最上川	暑き日を海に入れたり		夜の雨	門松の立ち初めしより
-----	------------	--	-----	------------

第14回全国書写書道総合大会 主催 一般社団法人日本書字文化協会 共催 公益財団法人文字・活字文化推進機構

課題解説

情景

前の句は江戸後期の一茶、後の句は江戸初期の芭蕉の作です。二人には約130年の間があります。が、どちらもさらりと町のすがたや自然の様子をよんでいて、その情景がよく伝わってきます。

「立ち初めしより」は、門松が立てられたときから、という意味です。門松は師走の13日から28日に立てる習わしです。冷たい雨が煙る歳末の感じが伝わってきます。次の句も「海に入れたり」が印象的です。ようやく暑い一日が終わった、というホッとした気分が伝わってきます。

（課題文は「書文協ことば会議」選定・創作）